



T A B U S E

Public Relations No.965

特集：まちの活性化へ！

田布施町 地域おこし協力隊

地域
おこし
協力
隊

2

2017 笑顔と元気あふれる住みよいまち田布施

まちの活性化へ！

～田布施町地域おこし協力隊～



＝ 地域おこし協力隊でこうした効果が得られます！ ＝

地域おこし協力隊

- 自身の才能・能力を活かした活動
- 理想の暮らしや生き甲斐の発見

地域

- 斬新な視点（ヨソモノ・ワカモノ）
- 協力隊員の熱意と行動力が、地域に大きな刺激を与える

地方公共団体

- 行政ではできなかった柔軟な地域おこし策
- 住民が増えることによる地域の活性化



who?

地域おこし協力隊とは。

『地域おこし協力隊制度』は、一般的に過疎化や人口減少など、地方が抱える課題解決のために、都市圏から地方へ人材を受け入れて行う『地域協力活動』である。『地域おこし協力隊員』はこの活動を行うために自治体から委嘱された人と言う。

隊員は、1～3年かけて地域に住み、地域のブランドや地元商品の開発・販売・PRなど地域おこしの支援、農林水産業への従事、住民の生活支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る。

（参考：総務省ホームページ）

地域おこし協力隊の梶さんをご紹介します♪

がんばります!!



かじ しゅんすけ
梶 俊介

生年月日 1991年4月1日(25歳)
出身地 兵庫県明石市
経歴 大学卒業後、大阪でスポーツ用品の商社に就職。その後、田布施町地域おこし協力隊に就任する。
趣味 スポーツ(野球・テニス)・読書・旅行・知らない町を散歩すること

梶さんが現在行っている活動



藍染めの体験・商品販売

子どもたちへの藍染め体験の指導、自分で作った商品をネット販売するなど、多方面に展開しています!

田布施町のPR

東京や大阪の移住フェアで、移住を検討している人たちに田布施町の良さをPR中。



健康指導

ダイエットやスポーツトレーナーの勉強で学んだ転倒予防・筋力トレーニングを活かし、健康教室を行っています。



人と楽しむ仕事を。

昨年4月から、田布施町地域おこし協力隊として活動している梶俊介さん。

第3者の視点から見た、『田布施町』という町とは。また、地域おこし協力隊として、今後どのような活動を行っていききたいのかを尋ねた。

が経ちますが、就任当初は、梶さんの地元（兵庫県神戸市）と田布施町の違いを感じましたか？

「意外と、あまり変わらないように思いましたよ。どちらも落ち着いた雰囲気ですね。」

田布施町に住んでみて、驚いたことは？

「車にすぐ乗るなあ…という点に驚きました！」

では、田布施町のみなさんの印象はいかがですか？

「いろいろなところで、町の活性化に貢献したいという人が多いいんだと感じました。地元に住んでいるときは、そういう人をあまり見かけなかったです。田布施町には楽しくて元気で、アグレッシブ（積極的）な人が多いですね。」

田布施町にある魅力は、どのようなところでしょうか？

「（田布施）地域交流館などは、すごいと思います。採れたての野菜を朝早くから出して、市場のような賑やかさ。」

町民のみなさんのコミュニケーションシヨンの場にもなっていますよね。

「そうですね。地域交流館は

もちろん、公民館や高齢者いきいき館でもさまざまな活動をしているので、そうした場があるのがすてきだと思っています。」

若い人たちも巻き込んで、楽しく活動したい。

今、地域おこし協力隊として藍染め体験や英会話カフェなどさまざまな活動を始めていますが、なぜこうした活動をやりたと思ったのですか？

「自分の興味のあるものからどんどん派生させていった形です。やはり、好きなことからつなげていかないと続かないのではないかと思っています。」

色々と始めてはいますが、なかなかイメージ通りにはいかなくて、悔しさも感じています。もっと町を盛り上げていきたいです。英会話カフェなどは、都会では社会人や大学生など若い人で溢れているので、自分と同じ世代の人たちにもぜひ参加してもらいたいですね。」

今後、若い人を巻き込んだ活動をしたいということでしょうか？

「難しいことではあると思

ますが、その気持ちはとても強いんです。」

他に、地域おこし協力隊としてやってみたいことはありますか？

「とにかく、みんなが楽しめるような活動をしたいです。自分も楽しめて、一緒にやってくれる人も楽しめるような。遊びではないけれど、遊んでいる感覚で楽しめるのがやりたいですね。それでみんなが元気になってくれたらうれしいです。どんどん周りの人を巻き込んでいきたいです。」

今は、ホームページを作って藍染めの商品を販売しようとしています。そこで、主婦の人やご年配の人の手編みなどのグッズも販売したいですね。今は誰でも自分で作った製品を売れますが、そのことを知らない人が多いと思います。「こういうこともできるんですよ」と広めていって、『新しい生きがい』を見つけてもらう活動もしていきたいです。みんなで集まって、お茶を飲みながら、話をしながら、何か作れるというような、そんなコミュニティづくりをしたいと考えています。」

自分のやりたいことで、社会貢献を。

なぜ、田布施町の地域おこし協力隊になろうと思ったのですか？

「自分が何をしたいかということとをずっと考えていたのですが、その中でよくには『自分がやりたいことで社会に貢献したい』という思いがありました。テレビやウェブサイトで地域おこし協力隊について知り、募集要項などを読むと、地域おこし

協力隊の考え方や理念がそうした自分の思いと合っていたんです。

田布施町は交流人口を増やしたいということを目指しているため、自分がやりたいと思っていた古民家改修やイベント企画などがそこにつながればいいなと思います、応募しました。」

田布施には積極的な人が多いと感じた。

田布施町に来てもうすぐ1年

地域おこし協力隊の活動を見守っています。



高橋 茂樹 さん

田布施町郷土館館長。故郷である田布施町に帰った後、東京で経験した藍染めを思い出し、趣味の一環として、畑で藍を育て藍染めなどを行っている。



藤田 敬太郎 さん

前・田布施町地域おこし協力隊として、昨年3月まで藤田枝里香さんとともに活動。現在は、個性や経験を活かした仕事をしながら、馬島に定住。

田布施の良いところを発掘してほしいです。

わたしが梶さんと活動を始めたきっかけは、梶さんが主催する藍染め体験の講師を頼まれたことです。そこで、私が育てている植物の藍を鉢上げして持って行き、実物を見てもらってから、藍の生葉を使ったたたき染めをしたり紡いだ毛糸を藍で染めたりしました。その後も梶さんとともに、西の寺子屋で子どもたちに向け、紡ぎ・藍のたたき染め・藍染め体験教室を開きました。

地域おこし協力隊には、田布施町の活性化のために何かしたいという熱意を感じます。町民が気がつかない田布施の良いところを発掘して、町おこしに結びつけていただければさらに良いと思います。

協力隊だからこそ触れられる魅力があります。

わたしは、田布施町地域おこし協力隊の任期を終え、現在『うましま COLOR』という名前で、島ぐらしの情報発信や子どもを対象にしたキャンプ、収穫体験のイベントなどを行っています。

地域おこし協力隊の活動期間中に、さまざまな人と知り合い、挑戦し、田布施の魅力に触れることができ、この町に定住しようと思えました。また、活動中にたくさん失敗できたことが今に繋がっており、任期終了後も多くの人が『うましま COLOR』を応援してくれていて、とてもありがたく感じています。

地域おこし協力隊の活動を行う中で、梶さんも戸惑うことや困難に感じることもあると思います。いつでも相談にのりたいと思っています。

田布施町
地域おこし協力隊
Facebook ページも
チェック！



これからも、地域おこし協力隊とともに、『田布施町』を見つめていこう。

彼らの活動を通して、わたしたちもあらゆる視点から新たな『田布施町の価値』を見つけることができるだろう。

今回の特集は、「田布施町の地域おこし協力隊って、今、何をしているの？」という素朴な疑問からスタートした。この町を知らない人たちがこの町で活動することで、誰も気づけなかった魅力を見つけ出す。そんな可能性を持つ事業が地域おこし協力隊だ。そして、田布施町で活動している彼らは、自分たちが持つアイデアや技術で、わたしたちの町のさまざまな表情を引き出している。

地域おこし協力隊とともに。

